



IUFRO-J NEWS

No. 25 (1985. 7)

新任ご挨拶

IUFRO-J 議長 難波 宣士

去る5月下旬、東京で開かれました本会の幹事会において、本年から議長をお引受けすることになりました。

不慣れのため皆様のご支援をお願い致しますとともに、長年にわたり本会の運営に骨折って頂いた土井恭次前議長に心から御礼申し上げたいと思います。

ところで、本会が形を整えて発足してから6年が経過しております。この間、先輩各位ならびに会員の皆様のご努力で第17回の世界大会を大成功のうちに日本で開催することができました。その後も、理事会や各種の研究集会についての情報や討議内容のあらましなどについての紹介などを続けておりますし、また、多少の活動資金も保持し得るようになりました。

本年10月には「生物生産力」についての研究集会が日本で行われるほか、世界各地で各種のユフロ関連の集会が開催され、関係深い会員の方々にはその準備に多忙を極めておられることと思います。さらに、来年はユフロ

活動の大きな節目ともいべき第18回の世界大会が、9月7日から21日にかけてユーゴスラビアで開催されることになっております。

日本での世界大会が終了したため、本会は不用ではないかという声も耳にしますが、地球の緑についての関心が高まり、その維持、造成のための研究開発にむかってユフロ自体がその活動をさらに活発化させようとしていることを考えますと、これからも、本会の活動はますます意義深いものになっていくと思っております。

先日の幹事会の席上、次回の世界大会の内容を会員一同に紹介するための企画づくりや、大会に参加される会員のグループ旅行の計画づくりなど、当面の活動についての要望は種々承りました。

これらの要望を含め、広く皆様の意見を伺って一步一步着実に本会の活動を盛り上げて参ることをお誓いしてご挨拶と致します。

日本のみなさんへ

ユフロ会長 ドゥシヤン・ムリンシェク (Dušan MLINŠEK)

京都での第17回ユフロ世界大会の参加者たちは、あの素晴らしい国際的行事のことを今でもまざまざと憶えています。いろいろな行事が際立って企画されていたあのような大会に参加できたことは、すべての参加者にとって大きな喜びでした。

参加者たちはまた、いくつかの西欧の発想が日本の林業の中にとり入れられ、見事に日本化されてしまってい

ることを知りました。また日本の人々が、木材とその性質にいかにも深く馴染んでいるかにも接することができました。日本の年間伐採量は生長量をこえていないばかりか、生長量の半分以上が蓄積にまわされているという事実は素晴らしいことでした。一方ではほとんど信仰ともいえるほどの樹木にたいする高い評価と、また一方では筑波のモダンな林業試験場は、次の大会を組織する私達に

重くのしかかってくる事実です。

ユーゴスラビアの林業技術者たちは第18回ユフロ世界大会の運営体制をすでにかため、ヨーロッパのこの地で、参加者の皆様を心からお迎えし、楽しく滞在して頂けるように準備を進めています。

大会ではいろいろな研究集会のほか、多くのエクスカージョンも計画しており、文化、伝統、さらには一般的な発展の状況に応じた、いろいろなレベルの森林施業をお見せしたいと考えています。ユーゴスラビアの大部分の地域は、日本のように急峻で、そのような自然に応じたいろいろな施業方法を見て頂くことができると思います。

近隣のオーストリア、ハンガリー、イタリー、ルーマニアなどの諸国とは密接な関係がありますので、とくに遠方からこられる方には、大会のエクスカージョンに引続いて、ユーゴスラビア以外の林業に接する機会もえら

れることと思います。

大会組織委員会およびユーゴスラビアの林業技術者たちは、日本のみなさんが、リュブリャナで開かれる第18回ユフロ世界大会に参加されることを心からお待ちしています。

ほとんどの方は第18回世界大会の第1回アナウンスメントを受けとられていることと思いますが、ユーゴスラビアの同大会組織委員会は日本での第17回大会の準備よりもむしろ早いペースで準備を進めています。

去る4月9、10両日に東京六本木の国際文化会館で国際森林年を記念したシンポジウムが開催されましたが、そのパネリストの一人として来日されたムリンシエク会長から、日本の会員各位にあてたメッセージをおあずかりしましたので拙訳でご紹介しました。因みに、同会長は、第18回大会が開かれるユーゴスラビア社会主義連邦共和国スロベニア共和国の首都にあるリュブリャナ大学の教授です。(浅川)

第18回ユフロ世界大会について

林業試験場 浅川 澄彦

明1986年9月に、ユーゴスラビアのリュブリャナで開催される表記大会の第1回アナウンスメントが昨年12月に印刷され、同月17日付で各会員機関に送りだされました。ところが、同大会の公認航空会社とされたパンアメリカン航空に配達を依頼したところ、少なくとも日本の中で大変な混乱がおき、早いところでも2か月、遅いところでは3か月もかかって届いたり、一部の機関には4月上旬時点でも届いていないことが分りました。

4月上旬はからずも来日されたムリンシエク会長にこのような事態を説明しましたところ、大変恐縮され、メンバー機関とくに受けとれなかった機関(4大学)にお詫びしてほしい、もうすぐ第2回サーキュラーをだすので、取敢えず4大学には一冊ずつご参考にご送ってほしい、第2回サーキュラーの配送は慎重に行ないたいと述べられました。筆者は1月中旬に、パンアメリカンに配送を依頼したという連絡を会長からうけていましたので、2月はじめから日本での窓口となっている会社に接触をとっていましたが、結局、大部分のものはこの会社を経ずに送られたようです。

このような事情でしたので、本号で、第1回アナウンスメントの中の重要な点をぬきだして紹介します。

記

開催地：リュブリャナ（ユーゴスラビア社会主義連邦共和国スロベニア共和国の首都）

開催時期：1986年9月7日～21日

会場：サンカリエウ・ドム（Cankarjev dom）

Congress and Cultural Center

Kidričev park 1, 61000 Ljubljana

Yugoslavia

シンボルテーマ：“Forestry Science Serving Society”

登録：9月6日（土）、7日（日）、8日（月）

開会式：9月8日（月）10：00～12：00

部会間合同集会：

Social and Economic Forestry 9月9日（火）

Wood Resources 9月9日（火）

Atmospheric Pollution and Deposition
9月10日（水）

Forestry and Energy 9月10日（水）

部会、各研究グループの集会：詳細は未定

ポスターセッション：

9月9日（火）16：00～17：00

9月11日（木）16：00～17：00

これらの時間は他の行事は一切行わない。

平日エクスカージョン：会議期間中の水曜（10日）午

後に近郊の森林などをみる。

閉会式：9月13日（土）10：00～

エクスカージョン：19コース（4日～8日、ただし13
コースは6日間）

*

招待論文、ポスター発表要旨とも締切りは1986年2月28日、討議（ボランティア）論文は当日持参。なおポスターセッションで発表を希望する方は、関連の部会長（別掲）に連絡をとる必要があります。部会長の了解がえられたら、所定の用紙（第1回アナウンスメントに添付されていますし、おそらく第2回サーキュラーにも添付されると思います）をつかって要旨を作成し、明年2月28日までに部会長に送付して下さい。

参加費 1985. 11. 30まで 1985. 12. 1以後

参加者 150 US\$ 190 US\$

同伴者 50 US\$ 75 US\$

（ただし会議期間中の半日エクスカージョンの経費は含まない）

なお、このアナウンスメントによると、第2回サーキュラーは1985年の中旬に刊行される予定とされていますが、6月20日付の会長の手紙によりますと、10月末か11月の初めになる模様です。

☆各部会長連絡先リスト

Division 1. Richard Hermann School of Forestry, Oregon State University
Corvallis, Oregon 97331. U. S. A.

Division 2. Edwin Donaubaauer Forstliche Bundesversuchsanstalt,
1131 Wien-Schönbrunn, Austria

Division 3. Marten Bol Landbouwhogeschool Vakgroep Bosbouwtechniek, Generaal Foulkesweg 64, 6700 AH Wageningen Netherlands

Division 4. Richard Plochmann Forstwissenschaftliche Fakultät der Universität München Schellingstraße 12/II 8000 München 40 Germany (FR)

Division 5. Robert Youngs Virginia Polytechnic Institute, Blacksburg, VA. 24061, U. S. A

Division 6. Lars Strand Norsk Institutt for Skogforskning, P. O. Box 61, 1432 Ås-NLH, Norway

ユフロ病虫害関係ニュース

林業試験場関西支場 小林 富士雄

OS2.05（病虫害抵抗性部会）集会は、今年8月ブラジルで開催されることになっていたが、政変のため1987年8月3～8日に延期となった。

○来年9月7～21日行われるユフロ大会で、S2.07（昆虫部会）はWG集会のほか、大気汚染と森林昆虫、熱帯の森林昆虫の2つのシンポジウムを行う。招待論文についてはすでに概定している。

OS2.07のうち、球果・種子害虫のWG（S2.07-01）の集会は、本年8月上旬米国モンタナ州で開催されるが、来年もユフロ大会の直前にあたる1986年9月3～5日フランスBriaçonで開催する。Briaçonはイタリアー国境にありヨーロッパで標高が最も高い町であるという。出席希望者は至急下記のチェアマンあて連絡願いたい。

Dr. Harry O. Yates III
Southern Forest Experiment Station

Carlton Street, Athens
GA 30602, USA

○“Forest Gall Midges and Rusts of Pines” Joint Meetingの集会在今年9月16～21日に韓国で開かれる。Gall Midgesの方はJ.-H. Ko博士で、Rustの方はJ.-Y. La博士が担当することになっている。招待論文についてはすでにほぼ決まっている。

○来年9月のユーゴスラビアで開かれるユフロ大会ではS2.06-04「針葉の病害」でWG集会在予定されている。くわしくは下記に問合せ願いたい。

Dr. Midhat Usćuplić
Faculty of Forestry
Zagrebacka 20
71000 Sarajevo
Yugoslavia

昭和 59 年度 IVFRO-J 機関代表会議

本会会則に基き機関代表者会議を正式に開催する予定でありましたが、このためのお集りいただくと多額の旅費を必要とする関係上、書面をもって昭和 59 年度事業報告、昭和 60 年度事業計画、昭和 59 年度会計報告、昭和 59 年度会計監査報告、昭和 60 年度予算（案）を御報告申し上げ、書類審議をしていただき、御承認いただきました。

1. 昭和 59 年度事業報告

- (1) IUFRO-J NEWS の発行 No. 22, 23, 24
(各 1,300 部)

(2) 会員の現況

A 会員	24 大学	575 名
	(学生)	4 名
	その他 3 機関	56 名
	国立林試	340 名
	計	971 名
	学生	4 名
B 会員	12 機関	15 名
C 会員		3 名

2. 昭和 60 年度の事業計画

機関代表会議

日本林学会第 97 回大会が、明年宇都宮大学で開催予定なので、その機会に代表会議を開催する予定。

情報活動

- (1) IUFRO-J ニュースの発行
(2) 60 年度開催の各部会、分科会、研究会への出席者による活動報告
(3) 61 年度開催予定の各部会、分科会、研究会に関する速報
(4) その他

3. 昭和 59 年度会計報告

- (1) 昭和 59 年度一般会計収支決算報告
別掲の通り承認
(2) 昭和 59 年度特別会計収支決算報告
別掲の通り承認
(3) 昭和 59 年度会計監査報告
西沢正久監事から別掲の通り適正で異状のない旨報告。承認。
(4) 昭和 60 年度予算案
別掲の通り承認。

(事務局)

昭和 59 年度一般会計収支決算書

(収入の部)

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	707,526	707,526	内 500,000 円は特別会計へ繰入 (4 月 7 日)
会 費			
A 費 (58 年度分)	120,000	129,000	
(59 年度分)	900,000	919,200	
B 会 費 (58 年度分)	0	0	
(59 年度分)	50,000	65,000	
C 会 費 (58 年度分)	2,000	0	2 名退会
(59 年度分)	3,000	3,000	
特別会計からの繰入	0	500,000	第 16 回理事会出席旅費補助金支出のため
雑 収 入	3,000	4,384	
計	1,785,526	2,328,110	

昭和59年度一般会計収支決算書

(支出の部)

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情報活動費	615,000	470,550	IUFRO-J ニュース印刷代 No.22, No.23, No.24, 各々1300部
会議費	90,000	0	
旅費	400,000	529,220	第16回理事会出席旅費補助
雑費	80,526	7,029	
文房具代等		(720)	
払込手数料等		(3,170)	
手形貸付利息支払		(3,139)	特別会計からの50万円の手形貸付 利息分
特別会計への繰入	500,000	500,000	
予備費	100,000		
計	1,785,526	1,506,799	

昭和59年度特別会計経理決算書

科 目	収 入 額	支 出 額	備 考
前年度繰越金	10,020,428		
利息	214,384		
一般会計からの繰入	500,000		
一般会計へ繰入		500,000	
計	10,734,812	500,000	
差 引 残 高	10,234,812		

注) 10月6日以降保管状態 1年定期 (A) 9,488,624円, 6ヶ月定期 (B) 746,188円

昭和59年度会計監査報告

ころ適正に管理されていると認め、ここに報告します。

本会の一般会計収支決算、特別会計収支決算ならびに
経理簿冊、預金通帳、現金等会計に關し詳細監査したと

昭和60年4月9日
監 事 西沢 正久

昭和60年度一般会計予算(案)

(収入の部)

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	821,311	
会費59年度分	63,000	
60年度(A会費)	973,000	
〃(B会費)	75,000	
〃(C会費)	4,000	
雑収入(利息ほか)	5,000	
合 計	1,941,311	

(支出の部)

科 目	金 額	備 考
情 報 活 動 費	615,000	ユフロJ ニュース $180,000 \times 3 = 540,000$ $500 \times 3 \times 50 = 75,000$
会 議 費	90,000	会場借料
旅 費	254,000	幹事会 (54,000) 理事会 (200,000)
雑 費	182,311	
予 備 費	200,000	
特別会計へ繰入れ	600,000	
合 計	1,941,311	

◆ IUFRO-J 幹事会 (議事録)

昭和60年5月29日(水) 14:30~16:30

永田町ビル内治山治水協会の議室

出席者

土井議長

難波幹事長

各幹事 小林(宇都宮大), 青山(筑波大), 西尾(東大林), 富田(東大林産), 川名(農工大), 林(東京農大), 本江(日大), 岩川(静岡大), 鈴木(名古屋大), 浅川 IUFRO 理事 事務局(八木, 田淵)

土井議長挨拶にひきつづいて、すでに郵送書類により各機関代表の審議・承認を得ていた、59年度事業報告、59年度会計報告ならびに60年度予算(案)報告が行われた。その後、1986年にユーゴスラビアで開催される予定の第18回大会対策について討議がなされた。

同大会への会員参加者への支援に関しては、特別会計(第16回オスロ大会後から予備資金として会費他を積み立ててきたもので、60年現在1千万円強に達している。)の取り扱い方が話し合われた。その際提案された意見は

大別すると次のようなものであった。

1. 第18回 ユーゴ大会参加者への旅費等の支援のため、同特別会計の全部あるいは一部を充当する。
2. 特別会計の5年間の利息相当額を、ユーゴ大会概要報告(仮称)作製のための取材費及び印刷費にあてる。
3. 次期ユフロ大会(東南アジア等途上国で開催される可能性大)のための運動資金として全額残しておく。

この他に参加者支援の方法の一つとして、グループツアー等の企画に関しても討議が行われた。その結果、ツアーの企画、調整等に関しては林業科学技術振興所に事務委託をすることに決定した。

最後に、土井議長の60年3月末での林業試験場長退職に伴い、IUFRO-J議長を難波林業試験場に引き継ぐこと、難波幹事長の議長就任に伴い新幹事長には浅川林業試験場造林部長(アジア地域理事)が就任することが了承された。(事務局)

ストラスブルグ・シンポジウムの概要

昨年9月17日~22日にかけて、フランスの東部国境、ライン河沿いのストラスブルグで、第1~4部会の合同シンポジウムが開かれたことはすでにご承知のことと思います。日本からは誰も参加しなかったようですが、30か国から169名が参集して盛会だったようです。去る4月中旬、このシンポジウムの世話をされた PARDÉ(前第6部会長), OSWALD(第1部会副部会長)両氏の名前でプロシーディングズが送られてきましたが、それによりまず、招待論文 26, ポスター発表 37, ボランタリー

論文は18あったようです。プロシーディングズには、招待論文全文、ポスター発表の要旨、ボランタリー論文の題名が載っています。またこのシンポジウムでも報告が採択されています。その構成は総論4項、第1,2部会3項、第3部会8項、第4部会3項で、別に発展途上国問題について現状とこんごの方向が述べられています。総論をみますと、複雑な林業研究については専門領域をこえたアプローチが必要であり、ユフロはそのような専門間にまたがる研究を育てる努力をしていかなければな

らないとしています。また森林にたいする人間のインパクトについても一層研究を強化し、将来を見通して、できるだけ早く、政策立案者や森林経営者に役立つような情報をだすことが必要であり、またMABなどの国際的

なプログラムとの協力を強めるとともに、大気汚染のような問題との関わりで、コミュニケーションシステムの開発が急務であるとしています。

(浅川)

ユーゴスラビア—スロベニア—リュブリャナ

リュブリャナ大会まであと13か月ほどになりました。それまでに本誌は少なくとも4回刊行されるはずですから、埋め草を利用して若干のご紹介をしたいと思います。もっとも筆者がリュブリャナを訪ねたのは1982年4月のことですし、あいにくその時ひどい風邪をひいて殆んど歩きまわることができませんでしたので、やや古い、限られた情報であることをあらかじめお断りしておきます。

ユーゴスラビア社会主義連邦共和国はバルカン半島に位置しており、西から北、東、南にかけて、イタリア、オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ギリシャ、アルバニアに接し、南西側はアドリア海に面しています。6つの共和国（スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニア）と2つの自治州（ボイボディナ、コソボ）から成り、こんど大会が行なわれるリュブリャナは、スロベニア共和国の首都です。連邦全体とスロベニアの面積を比べてみると次のとおりです。

	(連邦)	(スロベニア)
国土面積(A)	2,558万ha	203万 ha
森林面積(B)	920万ha	105万 ha
B/A×100	35%	50%
私有林	30%	62%
社会有林	70%	38%

スロベニアの森林率は連邦の平均より高く、また私有林の割合が連邦全体でみた場合よりずっと高いことが特徴的です。

連邦全体をみると7つの森林型に分けられていて、アドリア海沿いの島嶼を中心に常緑カシ型、海岸線に沿ってシデ型、その内側のアルプスから東南にのびる脊後山脈に沿ってヨーロッパブナ・ヨーロッパモミ・プラタナス型、その内側はシデ・カエデ型、ハンガリー・ルーマ

ニアと接するあたりにはカエデ・ナラ・カシワ型、東南部は中央にナラ・シデ型が南北に分布し、その東、西にバルカンブナ型がみられます。

ユーゴスラビアにおける戦後の林業上の特質としては、準天然生林施業の改善、山羊放牧の禁止と荒廃地の回復、ドナウ河周辺地域におけるポプラ栽培、南部の荒廃地における針葉樹（ヨーロッパトウヒ、マツ類、ダグラスファー、モミ類、ヨーロッパカラマツ）造林、林業教育・研究の振興などがあげられています。

林業経営の組織は共和国によって多少異なるようですが、スロベニアの例をみますと、国内が14地域に分けられていて、それぞれにforest enterpriseとよばれる組織がおかれています。各enterpriseは独立に、管轄地域内の社会有林、私有林を含めて経営管理していますが、スロベン・グラデツ地域を除く13地域ではforest enterpriseとならんで林産のenterpriseがあるそうです。スロベン・グラデツでは、1つのenterpriseが林業、林産を合わせて総合的に管理運営しています。

ユーゴスラビアはブナ林の国だそうです。生長量にしろ針葉樹の割合はセルビアで最も少なく7%、最も針葉樹の多いスロベニアで55%とされています。因みに、1979年の連邦の伐採量2,000万m³の70%は広葉樹で、針葉樹は30%だったようです。一方スロベニアでは毎年約300万m³が伐採されていますが、その内訳は60%が針葉樹で40%が広葉樹です。

スロベニアの蓄積は約1億7,400万m³で、ha当たりで見ると174m³です。これはスイスの257m³/ha、オーストリアの201m³/haに次ぐものではありませんが、立地条件から考えるとさらに向上の余地があるようです。また生長量もこの20年間で著実に増加しているようですが、ha当たりの平均生長量は4.1m³となっています。

(浅川)

お 願 い

次回IUFRO-J NEWSは11月頃発行予定です。ユフロ大会を来秋に控え各ワーキンググループ、部会ともす

でに活発に動いているようです。会員への連絡、呼びかけ等ございましたら10月中旬頃までに事務局まで原稿をお寄せ下さい。

第18回ユフロ世界大会参加アンケート用紙

氏名 _____ 所属 _____

連絡先 _____

- 大会に出席 する したいが不確か 未定
 同伴者 あり _____名 ない
 エクスカーション 参加する コースNo. _____ 参加しない
 登録手続送金 自分でする 代行してほしい
 ツアーに対する 最も安上りのツアーを希望
 希望 添乗員のサービスなど多少経費がかかってもよい
成田、ゲート空港往復は一緒、中間は別行動
その他（出来れば希望コースを記入して下さい）

第18回世界大会ご出席の会員の方々へ

(財) 林業科学技術振興所

ユフロ日本委員会の委嘱により（6頁の幹事会議事録参照）、第18回大会にご出席の方々の旅行の便宜を計るため、当所では旅行業者と接衝に入ることとなりました。つきましては、会員の皆様のご意向を承りたく、上記様式をコピーのうえ、必要事項を記入し、貴機関の幹事までご提出下さい。各機関の幹事の方々には、大へんお手数をおかけしますが、所属会員のアンケートをお取りまとめのうへ、8月末日までに当所あてご送付下さい。

ユーゴ大会参加ツアーについて

参加ご予約の皆様にはいろいろな考え方がございます。研究発表や視察旅行を効率的に行つて最も安くあげたいという方。外国旅行は不馴れなので添乗員をつけてほしいという方。同伴者のある方。成田とヨーロッパのゲート空港間の往復は一緒にして、中間は個別の行動をとりたいという方。登録手続きや登録料の外国送金を代行してほしいという方。さらに、エクスカーションの日数も4、6、7、8日などまちまちです。

そこで、数種類のツアーを組み、10人以上あるいは20人以上のグループになるよう応募していただくのが、皆様のご希望にできるだけ添えることではないかと思えます。今回のアンケートはそのための予備調査です。これをもとに、いくつかのツアーコースを作って10月頃にご通知する予定です。ちなみに、一つのサンプルを作りました。これを参考にしてアンケートにお答え下さい。

《サンプルツアー日程（15日間）》

1986年

9月6日	21:30	成田発	英国航空 006
7日	05:55	ロンドン着	
	13:35	ロンドン着	ユーゴ航空 213
	16:35	リュブリャナ着	予約ホテルへ
8～13日		大会出席	
14～19日		6日間コースのエクスカーションに参加	終着地泊
20日		終着地からベオグラードへ	ベオグラード泊
21日	08:45	ベオグラード発	ユーゴ航空 262
	10:20	ロンドン着	
	13:10	ロンドン発	英国航空 005
22日	14:35	成田着	

上記航空賃 377,000 円（ただし、現行運賃による）

◎アンケートの送付先

〒102 東京都千代田区6番町7(日林協別館)

(財) 林業科学技術振興所

ユフロ担当：雨倉朝三あて

IFURO-J NEWS No. 25

昭和60年7月30日

編集・発行：国際林業研究機関連合

日本委員会事務局